

5. 社会連携，高大連携活動等

大学における研究成果や開発技術を社会に還元することに加えて，大学が有する施設や設備・機器を用いて国民の科学技術の理解増進に努めることは，社会に開かれた国立大学の重要な使命のひとつである。特に，「海事」や「海洋」に関する科学技術の知識普及活動は，海事科学部の役割である。

また，「海事科学部」という，一般の方々には聞きなれない学部名称を持つ海事科学部にとっては，学部広報という観点からも，高校との連携活動にも重点を置く必要がある。この観点から，附属練習船深江丸を始め，船舶運航シミュレータや海事博物館など，特徴ある施設・設備を用いた知識普及活動や出張講義・講演会など，教員が出向いて行う連携活動を積極的に行っている。

以下，平成 22 年度以降平成 26 年度までの 5 年間の活動内容を対象別（高校生，一般，青少年）に紹介する。

5.1. 社会連携活動

(1) 公開講座

社会貢献の一環として，一般市民を対象とした公開講座を毎年開催している。市民からの要望が多い練習船「深江丸」や大型クルーザー「クライナーベルク」を用い，船のしくみや動かし方，ヨットのクルージング技術や社会的なトピックス等を組み合わせた公開講座を開講してきた。

表 5-1 に，平成 22 年度以降の実績を示した。平成 26 年の「船で巡る瀬戸内スケッチ旅行～美術と食を通じて物流を考える～」の受講者を対象としたアンケートにおいては，「満足いただけましたか」という質問に対し，「かなり満足した」と「満足した」の合計が 100%となり，高い満足度が得られている結果となった。

表 5-1 公開講座実績一覧

年度	日程	テーマ名	形態	参加者数
2010 (H22)	7月31日～ 8月3日	龍馬の時代の機関学，航海学	深江丸	32
	10月2日～11 月6日	江戸時代の海路の賑わい	市民講座（海事博物館との共催）	279
2011 (H23)	7月6日～ 18日	ヨットクルージング	クライナーベルク	17
	8月10日	マリー・キュリーの考えていたこと	海事科学研究科	24
	10月8日～ 11月12日	航海術と計器の発展 －大航海時代から人工衛星まで－	市民講座（海事博物館との共催）	250
2012 (H24)	7月1日～ 16日	ヨットクルージング	クライナーベルク	17
	7月31日～ 8月3日	海洋環境の汚染，その対策	深江丸	25
	10月6日～ 11月17日	船の推力発展史 －人力・風力から未来へ－	市民講座（海事博物館との共催）	241
2013 (H25)	6月30日～ 7月15日	ヨットクルージング	クライナーベルク	18
	8月5日	再生可能エネルギーの利用に向けて	海事科学研究科	43
	10月5日～ 11月16日	進水式の絵葉書に見る船の変遷 ～船舶の過去から現在～	海事博物館	237
2014 (H26)	7月31日～ 8月1日※	「船で巡る瀬戸内スケッチ旅行 ～美術と食を通じて物流を考える～」	深江丸（尾道訪問）	29
	8月1日～ 8月3日※			
	7月31日～ 8月3日※			

※コース別に日程を設置

(2) 海事博物館

海事博物館の前身は、海事思想の普及に寄与することを目的として昭和33年に神戸商船大学に設立された「海事参考館」で、その後、昭和42年に神戸商船大学海事資料館に、さらに、大学統合後の平成16年10月5日に現在の海事博物館へと名称を改めて今日に至る。

収蔵資料は「和船」から「近未来船」に至る大小様々な船模型、海路図や絵巻類、ポスター類や絵葉書類、寄贈を受けた特別コレクションなど約23,000点を数える。これらは展示スペースをはるかに超えるものであるため、毎年、海の日を記念して企画展を開催し、常設展示に加えて、企画の内容に沿った収蔵物や借用展示物を一堂に公開する。また、秋季の毎週土曜日に5回程度、海事科学研究科公開講座・海事博物館セミナーを開催して市民に親しみのあるキャンパスを目指す。平成25年4月1日、当館は内閣府の歴史資料等保有施設の指定を受け、神戸大学唯一の博物館として更なる充実を図ることになった。

なお、教員で構成される専門員と神戸商船大学の卒業生で構成される特別専門員及び顧問の全スタッフがボランティアであり、専属の教職員は不在である。このため、毎週、月・水・金の午後には開館して学生や一般市民に無料開放している。また、博物館の運営に当たり、大学、研究科、海事科学振興財団からの支援を受けるとともに、企画展の開催に当たっては日本財団の助成を受けている。さらに、寄附金も随時受け入れている。

主な活動を以下の表にまとめる。

表 5-2 海事博物館の主な活動

年度	主な活動内容
2010 (H22)	7月19日の「海の日」を記念して、日本財団の助成により、7月16日(金)から神戸大学ホームカミングデーの10月30日(土)の間、「江戸時代の海路の賑わい」と題して第6回企画展を開催した。過ぎ去りし時代の事実をその証(あかし)として残すために、当館に常設展示する和船模型や絵馬、航海属具などに加えて、長尺のために普段は公開していない道中図巻や海路図屏風などの所蔵資料を一挙に公開して往事の海路の賑わいを偲ぶ企画とした。会期中の来館者は1,137人、平成23年3月末までの来館者は2,474人であった。
2011 (H23)	7月18日の「海の日」を記念して、日本財団の助成により、7月15日(金)から10月28日(金)の間、「大航海時代から人工衛星まで 一航海術と計器の発展」と題して第7回企画展を開催した。15～17世紀にヨーロッパ人が帆船で大洋を渡りアジアやアメリカに至る新航路を開拓して世界各地に進出していった時代から近代に至る航海術や、航海を無事に達成するために考案された様々な航海計器や海図などを取り上げ、人類の「知恵と技術」発展の軌跡に関する所蔵資料を一挙に公開した。会期中の来館者は974人、平成24年3月末までの来館者は1,984人であった。
2012 (H24)	7月16日の「海の日」を記念して、日本財団の助成により、7月13日(金)から10月27日(土)の間、「船の推力発展史 - 人力・風力から未来へ - 」と題して第8回企画展を開催した。人やものを乗せる「器」としての舟の発明の起源から近未来に至るまでの動力の発明・発展に焦点を当て、当館及び海事科学研究科が所蔵する史料を展示してその変遷をたどった。なお、この企画展の開催に当たり、海事関連企業や団体、個人等の様々な分野から展示資料のご協力をいただいた。会期中の来館者は1,274人、平成25年3月末までの来館者は3,109人であった。
2013 (H25)	7月15日の「海の日」を記念して、日本財団の助成により7月12日(金)から10月26日(土)の間、「進水式絵葉書にみる船の変遷」と題して第9回企画展を開催した。今回は常設展示に加えて海事博物館と特別専門員の中から構成される造船資料保存グループが所有する3千セットを超える貴重な進水式絵葉書の中から特徴的なものを選びすぐって展示し、近代日本の造船の歴史と船の進化を辿った。会期中の来館者は1,071人、平成26年3月末までの来館者は2,880人であった。
2014 (H26)	7月15日の「海の日」を記念して、日本財団の助成により、7月18日(金)から10月31日(金)の間、「船舶模型から学ぶ人・海・船」と題して第10回企画展を開催した。四方を海に囲まれた島国「日本」に暮らす私たちは、様々なかたちで海を利用し、日本の貿易物資の実に99.6%が海上輸送の主役である「船」で運ばれている。日本の豊かで文化的な暮らしに不可欠な存在でありながら、意外と現代人になじみの薄いこの「船」を当館が所蔵する大小様々な船舶模型などを通じて紹介し、海事の啓発とともに海運の重要性についてより一層の理解を図ることに努めた。なお、会期中の来館者は、876名であった。また、11月10日(月)から12月19日(金)には、西南学院大学博物館、梅光学院大学博物館と共同企画した巡回展示「Sea Route 海路 海港都市の発展とキリスト教受容のかたち」を開催した。上記企画展・展覧会を含む平成27年3月末までの来館者は、2,329人であった。

(3) 青少年対象体験型セミナー

深江丸を用いた海洋体験は、青少年の海に対する興味を醸成するには有効な方法のひとつである。そこで、小学生高学年を対象とした1泊2日の体験型海洋セミナーを主催しており、夏休みの間に実施している。例年、約4倍の応募倍率となっており、参加者及び保護者からは非常に好評を得ている。

また、神戸市東灘区との間で、それぞれの持つ人材や知識、情報などの資源を活用し相互に協力することにより、人材育成と地域活性化に寄与することを目的として、協定を締結しており、東灘区との共催による体験スクールを企画・実施している。

これまで実施した主なセミナーを以下にまとめる。

表 5-3 青少年対象セミナー実績

年度	日程	形態	主催／共催	参加者数
2010 (H22)	7月27日	こども体験スクール2010	東灘区との共催	22
	8月21, 22日	体験型海洋セミナー	主催	22
2011 (H23)	7月27日	こども体験スクール2011	東灘区との共催	30
	8月20, 21日	体験型海洋セミナー	主催	32
2012 (H24)	7月26日	こども体験スクール2012	東灘区との共催	40
	8月21, 22日	体験型海洋セミナー	主催	26
2013 (H25)	7月25日	こども体験スクール2013	東灘区との共催	40
	8月24, 25日	体験型海洋セミナー	主催	46
	12月26日	神戸・みなと体験	神戸海事地域人材確保連携協議会主催事業への協力	24
2014 (H26)	7月25日	こども体験スクール2014	東灘区との共催	36
	8月5日	みなと・船の役割大発見！ 海事施設見学会	主催：神戸運輸管理部	23
	8月23, 24日	体験型海洋セミナー	主催	30
	平成27年1月6日	神戸・みなと体験	主催：神戸海事地域人材確保 連携協議会	33

(4) その他

平成26年度には、海事思想の普及を目的として、体験型イベント「発見・体験！船の世界」を実施した。グランフロント大阪を訪れる親子連れなど一般の方々にシップ・シミュレータを用いた操船体験等を提供し、2日間で約270名が来場した。

5.2. 高大連携活動

(1) SSH 活動への協力

大阪府立千里高校は、毎年海事科学部の見学を行っていた高校のひとつで、普通高校から専門高校へと改編し「国際・科学高校」となった。これを機に、単純な施設見学だけでなく大学での教育研究に触れる機会の提供を目的として、神戸大学海事科学部主催・千里高校との連携という枠組みで、平成 18 年度からサイエンス・パートナーシップ・プロジェクト (SPP) へ申請し、以後 4 年連続で採択された。同校が平成 22 年度にスーパー・サイエンス・ハイスクール (SSH) に指定されたことを受けて、連携活動は千里高校側に主体を置いたプログラムに改訂し、その後平成 26 年度まで毎年継続して行っている。

また、平成 24 年度からは、奈良学園高校及び島根県立益田高校の SSH 連携授業へも協力している。

(2) 出張講義

大学で行っている研究内容を一般の方々、特に次代を担う高校生に対して分かりやすく説明することは、大学進学や勉学意欲向上のためにも重要な活動である。

海事科学部では、教員に講義テーマを募集した上で、高校側からの希望テーマと担当教員のスケジュールを調整して教員を派遣してきた。表 5-4 は、平成 26 年度時点で用意している出張講義の一覧 (43 件) で、内容は多岐にわたり、高校側の様々なニーズに答えられるよう工夫している。表 5-5 には、平成 22 年度以降平成 26 年度までに実施した出張講義をまとめた。一部の高校に対しては、高校側の希望により、模擬講義ではなく学部概要説明のみを実施した。出張講義の実施件数は、第 1 期中期計画期間中の年間平均 2.6 件と比べて、平成 26 年度には 12 件まで増加してきている。

表 5-4 出張講義テーマ一覧

講義テーマ	講義内容
人工衛星から移動体の位置を測る	今日では、人工衛星が見える場所ではほぼ地球上のどこでも、いつでも私たちは移動体 (船、航空機、自動車など) の位置を数メートルの精度で得ることができます。ここでは、人工衛星を用いて移動体の位置を測る方法についてお話します。
壊さず運ぶために・・・	壊さずに運ぶための緩衝包装の技術について、簡単な実験を交えて解説します。それは、緩衝材を使用して想定される外力をコントロールする手法です。決して適当に包装されることはないのです。物理の「力と運動」を体験的に学習する機会として楽しんで下さい。
船を操る仕組み	水面を走る船がどのような原理で動いたり曲がったりしているのかを、力学の基本をもとに考える講義です。
航法計算	船や飛行機などの移動体において、その進路、速力から推測位置 (自分の位置：緯度、経度) を求める計算方法を紹介します。また、位置、針路、方位等に関連する航海分野の専門用語についてお話します。
タイタニックの悲劇 (情報通信技術の発展)	映画でも有名な豪華客船「RMS タイタニック」は、1912 年 4 月 14 日、最初の航海で北大西洋において冰山と衝突し、沈没しました。当時の最新技術である無線通信装置を用いて同船は遭難信号を発信し、救助を求めることができました。その結果 1 隻の客船が救助に向かい、約 800 名の乗客が救助されました。しかし残念ながら 1600 人あまりの犠牲者も出しました。この事件は 20 世紀の初頭の出来事ですが、その後、情報通信技術は、20 世紀の約 100 年間にめざましい発展を遂げ、現在のデジタル技術につながっています。この 100 年間の通信技術とメディアの変遷を紹介します。

コンピュータはなぜ計算できるか？	今や、あらゆる場面でコンピュータを利用しなければならない時代です。たとえば携帯電話は、メールはもちろん通話もデジタル通信であり一種のコンピュータです。また、テレビもデジタル放送になり、受像機にはコンピュータが入っています。そのコンピュータが処理（計算）をする原理は、あらゆる情報（数値）を1と0の二通りの値に変換して処理をするというデジタル技術であり、論理回路と呼ばれる電子回路により実現されています。その最も簡単な原理として、コンピュータはなぜ1+1の計算ができるのかを解説します。
海上の安全—海賊・テロに対する国際的な取組	船舶に対する海賊事件が近年増加しています。また、米国同時多発テロを契機に船舶がテロに使用される危険についても国際社会の関心事となっています。この講義では、海賊・テロに対して国際社会はどのように取り組んできたのか、今どのように対処しているのかを検討します。さらに、こうした海賊やテロが起こる背景についても考えていきます。
船に働く力（大量のモノを運べる原理とコントロールの難しさ）	船体の構造を概観するとともに、船体に働く様々な「力」を紹介する。浮体を成立させる力、運動に伴って発生する力、風や潮の流れによる力、そして、船体を推進させる為の力、姿勢を制御するための力、船体構造に関係する力である。これらの関係から船が大量のモノを運べる原理を紹介する。船体を安全にそして経済的に動かさなければならない理由を改めて確認するとともに、コントロールする難しさに関係する研究の課題を紹介する。
国際港湾と貿易の将来展望	港が変わると貿易がどのように変わるのか、今後の貿易の変化に対応するために港はどうあるべきなのかなど、港と貿易の関係を考え、港に関する政策を立案するための方法について、数理的な手法を中心に解説します。
船や電車の情報科学	毎日たくさんの人や物を運ぶ船や電車をシステム全体として効率的に運用するには、情報技術やその基盤となる数学的な考え方が今後益々重要になってきます。本講義では、船や電車の効率的な運用につながる情報科学の基本的な方法論を紹介します。
世界の航空輸送の仕組み	現在、国際航空輸送の分野では規制緩和が進行し、航空企業や国際空港の間で熾烈な競争が繰り広げられています。同時に、都市交通と同様に、国際交通（航空/海運）の分野でも、地球温暖化ガスの排出規制に関する取り組みが求められています。本講義では、ヨーロッパ地域やアメリカ地域で現在起こっている国際航空輸送を取り巻く現状を分かりやすく説明した上で、アジア地域における国際航空の今後と我が国の航空企業/空港の展望について考えてみたいと思います。
航空会社の経営戦略への数理的アプローチ	グローバル輸送に航空は欠かせませんが、昨年、格安航空会社（LCC）3社が新規就航し、その運賃の安さが大きな話題となりました（1万円で台湾往復も可能です）。本講義では、LCCがどのようにして格安運賃を達成しているか、更には従来からある大手航空会社がどのような対抗策を考えているかといった経営戦略をデータ分析によって考察します。
コンテナ輸送とコンテナターミナルのしくみ	生産と消費が国際間で実現できるようになった大きな理由は、コンテナと呼ばれる世界共通で利用可能な容器を使うことにあります。これは、船への積み降ろし作業を容易にし、船からトラックや鉄道への陸上輸送への接続もスムーズに行うことを可能しました。本講義では、コンテナ輸送の歴史と現状、接続点であるコンテナ港湾（コンテナターミナル）のしくみと高度化について解説します。
機械に人間の顔がわかるわけがない！？	最近のデジタルカメラは、人間の顔の位置や笑顔の割合を表示したり持ち主を認識するものもあります。機械は本当に人間の顔をわかっているのでしょうか？ その仕組みを解説し、将来どのような社会になるか考えます。
人工知能：チーム編成問題	ある目的を達成するために、どのようにチームを構成するか。例えば、野球やサッカーの選抜チームを作ったり、ある製品の開発・営業チームを作ったりなど、実世界にはどのようにチームを作るとうまくいくか（効率的、安定など）という問題が数多く存在します。本講義では人工知能を用いて、チーム編成問題などの基礎研究を紹介します。
環境と輸送	環境問題を解決するためには、直接的に環境負荷物質を排出している産業だけでなく、消費者である私達も努力と決断が必要です。環境に優しい消費行動をするためには、製品が私達の手元に来るまでにどのように環境負荷物質を排出してきたのか、その仕組みを知らなければなりません。輸送は、私達が商品を買うためには不可欠なものである一方、環境負荷物質を排出します。「環境に優しい」とはどういうことなのか、輸送を例に考えてみましょう。

地域の交通問題と取り組み	近年の急速な人口減少、高齢化が進展する中で、バス・タクシーなどの公共交通は、地域の経済社会活動の重要な基盤として、その役割が注目されています。例えば、高齢者・障害者等の交通弱者の外出支援や人的交流の活性化による都市或いは地域の活性化や地球温暖化等環境問題への対応策などのツールとして、公共交通が利用されています。この授業では、現在、地域公共交通が置かれている現状を説明するとともに、各地で行われている地域公共交通活性化の取り組みを紹介します。
身近な事例から経営学・経済学を学ぶ～経営の経済学入門～	経営の経済学は、経営学が対象とするビジネスの世界で起こっている現象を経済学の考え方をを用いて理解する科目です。例えば、なぜタクシーは夜間割増料金なのか、なぜ携帯電話の通話プランには様々なメニューがあるのか、なぜファーストフード店の割引クーポンは小さい紙片が多いのか、家電量販店などで見られる「最低価格保証」というシステムはなんであるのか、など皆さんの生活に身近なことも経済学の分析道具を使うと、実は様々な企業の思惑があることがわかってきます。
画像で遊ぼう	画像処理技術を応用した新しいタイプのトリックアート（だまし絵）の仕組みを紹介したり、コンピュータビジョン分野の最先端技術、画像処理における数学の役割などについてお話しします。
科学の目で見た身の回りの包装材料	今、私たちの身の回りにはペットボトルやラップ類などのプラスチック（有機高分子）を用いた包装材料があふれています。このような包装材料の「内容物を保護する機能」について分子レベルで科学的に考えてみる講義です。
衛星から測る海面水温	海面水温は海水の性質を表すだけでなく、大気と海洋の境界における相互作用を左右する重要な物理量です。本授業では地球観測衛星から海面水温を測る原理を放射温度計を利用してデモンストレーションします。また、その原理を基に全球規模で得られる様々な海面水温画像を分析します。
衛星から風を測る	地球観測衛星搭載の様々な合成開口レーダーや散乱計から得られる画像を用いて海上風速の推定、風力エネルギー資源評価を行っています。洋上風力資源評価のための衛星画像解析だけでなく、現場及びメソ気象モデルを利用して検証を行い、洋上風力資源開発への貢献を目指しています。
船での国際輸送に必要な3つの原則	私たちの日常生活は食料、物資、エネルギーなど全て船舶による輸入・輸出によって成り立っています。船舶で国際間を輸送するには自然条件の厳しい外洋を航海しなければならず、陸上輸送に見られない研究が必要になります。ここでは輸送の安全性、経済性、環境の三原則に関する研究内容を簡単に紹介します。ここでは数値シミュレーションを主に使っていますので、これについても学習します。
量子ビームの利用	現在、荷電粒子ビーム、光子ビーム、中性子ビーム等の量子ビームが工学、工業化学、物理学、医療、各種分析等様々な分野で利用されています。本講義ではこれら量子ビームの発生方法からその特徴、そして利用方法について解説します。
太陽放射と地球環境	太陽からの放射は地球の主たる熱源・エネルギー源であり、それが目に見える場合には色として認識されます。講義では、地球での平均的な熱の循環（収支）と温室効果、海中の光、空の色・海の色などについて、地球の自然環境を太陽放射との関わりから論じます。
電気力でイオンを分ける	水に溶けているイオンを分ける方法の一つに、細いガラス管の中に電解液と試料溶液を入れ、その両端に電圧をかけて行うやり方がある。これについて、簡単な実験を行うことにより紹介する。
電気力で海水中成分をはかる	電気力を利用して、海水に含まれる成分をはかる方法を紹介。溶液を満たした細いガラス管に試料を入れ、二つの電極間に電圧をかけると、各成分は、異なる速度でガラス管内を動き、分かれてきます。検出器でシグナルが記録され、その位置から成分の種類、大きさから濃度がわかります。
船と地球環境保全	海水表面を動く船舶は、海洋環境と大気環境の両方から波や風の影響を受け、かつこれらの環境へ船底防汚剤の溶出や排ガスの排出等で影響を与えています。近年、船舶バラスト水や船体に付着して越境移動する生物種を抑制する技術や、煙突から大気へ放出される排ガスを浄化する技術の開発が進んでいます。より環境にやさしく、安全に貨物を運べる船の開発に大きな期待が寄せられています。このような取り組みを紹介します。

マリー・キュリーの考えたこと	いまから百年前、マリア・スクロドフスカは国としての独立が許されていないポーランドからフランスに渡り、ポロニウムとラジウムという新しい元素を発見しました。レントゲンによるX線の発見やアンリ・ベクレルによるウラン放射能の発見と並んで、それは現代自然科学を生み出す端緒となりました。彼女は女性が大学の講義を受けることすら困難であったような社会の中で誰もなし得なかった業績を残すとともに、実の娘もノーベル賞研究者に育て上げるという離れ業を成し遂げました。また、戦時にあつては、「小キュリー（移動式のX線撮影装置）」を使って何千何万という負傷兵を救ったのでした。この百年間をマリー・キュリーの視点から振り返り、21世紀を生きる私達が、科学のあり方や核エネルギー利用の成果と限界について考えるに際して必要な基礎を提供します。
水環境の汚染をはかる	水環境の汚染の程度を定量化（数値化）することについて述べる。まず、はかる（計る、測る、量る）ことについて述べ、水中の化学成分の定量原理、生物を用いた分析方法による定量原理について、例をあげながら紹介する。次に、例題を解きながら、実際の水環境の汚染を定量的に扱う。水環境を汚染する化学物質について、未だによく分かっていない事柄について紹介しながら、自然が持っている作用や自然の複雑さを理解する。
嵐の中のサバイバル	資源に乏しく海に囲まれた日本では、船舶を利用した海上輸送が欠かせません。長い日数を要する国際航海では非常に厳しい嵐の中を航行することもしばしばですが、船舶はいかなる海象下でも安全に航行できなくてはなりません。本講義では、極限的な波浪中での船舶の運動や安全性について、最新の研究成果を交えながら解説します。
統計学への誘い	情報技術の進歩に伴い、データを蓄積することが容易になった昨今、莫大な量のデータから現象を捉えるための強力な方法論として、統計学が注目を浴びています。しかし、我が国では、高等学校までの期間において統計学を学ぶ時間は非常に少なく、多くの方々にとって馴染みが薄い学問かも知れません。本講義では、身近なデータを用いた統計解析の実例を通して、数学や統計に関する前提知識を最小限にとどめながら「統計学が出来ること」を紹介します。
動力の伝達と推進器の働き	交通輸送機関の役割は、人やものを効率良く安全に移動させる（運ぶ）ことです。そのためには、原動機、推進器、移動体の3要素が不可欠となります。船舶や航空機を例に挙げ、原動機で生み出された動力がどの様に変換されて移動体（船体や機体）の推進に活用されるのか、流体推進におけるメカニズムについてわかりやすく解説し、船舶推進器の種々の工夫例について紹介します。
エネルギーとエンジンの歴史と未来	熱エネルギーを変換して大きな仕事を生むエンジンが発明され、産業革命によって人類の生活と地球環境が一変しました。地球温暖化、PM2.5、海洋資源開発競争、分業制労働、グローバル社会。全てその産物と言っても過言ではありません。この講義では、蒸気機関、ガソリン機関、原子力、太陽電池、風力、バイオ燃料、水素エネルギーなど、様々なエネルギー源とエンジンについて概説し、人類急発展の歴史を振り返り、日本・世界・人類・皆さんの未来について考えます。
注射器を押して学ぶ船のエンジン（ハイブリッドカーやF1のエンジンより圧倒的に優れた性能の秘密）	トヨタのプリウス等のハイブリッドカーは低燃費で人気です。F1のエンジンは大きな馬力の代表格です。ハイブリッドカーより低燃費で、F1エンジンより高出力の内燃機関があります。船のエンジンです。小学校の理科の授業では、注射器を押してピストン内の圧力上昇を体験します。中学の理科では圧力と仕事の間接関係を学びます。これらの勉強は「モノ作り立国」日本のエンジン開発の為に行っているとも言えます。エンジンに関する基礎知識は、発電所、環境プラント、航空機、宇宙工学など幅広い分野で役立ちます。この授業では注射器の圧力と仕事の間接関係から始めて、世界最高性能を有する船のエンジンの基礎から最先端技術を学びます。
超伝導技術を海に活かす	極低温の世界で最も興味深い自然現象の中に、「超伝導」（電気抵抗ゼロ）と呼ばれる量子現象があります。私は、この超伝導現象を基礎とした極低温科学技術をいかに「海」に活かすかという研究を行っています。特に、「水素」をキーワードとして、海洋環境・エネルギー問題の解決を目指しています。この授業では、超伝導電磁推進船、海流MHD発電・水素発生、MHD方式による海洋流出油の分離、水素エネルギーの海上輸送基盤技術などの研究について、わかりやすく紹介します。
エンジンを取り巻く環境とエネルギー	原動機として多用されている内燃機関（エンジン）は、排気ガスとして有害な窒素酸化物やススなどを排出します。それが環境にあたる様相を紹介し、環境保護のための規制の動向に触れます。とくにディーゼルエンジンにおける環境対策方法として、ディーゼルエンジンにおける燃料の拡散過程を説明し、新技術として期待されている電子制御式噴射系について触れます。あわせて、バイオ燃料の適用に関する研究例を紹介いたします。

なるほど！身近にあるモノの作り方	砂遊び、粘土細工などしたことがない人はいないでしょう。身の回りのものでも、それがどのように作られているか考えたことはあるでしょうか。すぐにはその作り方が思い付かないものがたくさんあると思います。材料やその作り方を知れば、より一層身近に感じるだけでなく、もの作りに興味が湧き、想像力・創造力も膨らむのではないのでしょうか。身近にあるものを対象として「もの作り」の技術、製品について一緒に考えてみましょう。
ホット・ホッタ・ホッテスト★熱とエネルギー	「熱」は「エネルギー」の形態のひとつです。新しい科学技術が出現してきても、エネルギーを消費し、大事な資源を減らし、環境を破壊するものであってはいけません。「温度」、「熱」、「エネルギー」についての理解を深め、さらに、これまで出現した省エネルギー、省資源の科学技術について考えてみたいと思います。
船舶機関士の職務と役割	島国である日本にとって海運は欠かせないものでありながら、日本の船舶数や船員数は年々減少しており、船員の高齢化も進んでいます。ますます、今後を担う若い人たちが求められています。本講義では、船員の中でも船舶機関士の仕事や船内生活、業界のニーズ等また、どうすれば船舶機関士になれるのかをわかりやすく紹介します。
モノの形と強さ	身の周りには様々なモノの形と強度には密接な関係があります。大きな橋には吊り橋が多いのはなぜ？ 巨大な船の船体に使われている鉄板の厚さは何センチ？ 竹の節はなんの役に立っている？ などなど、これらの疑問は、材料の力学を考えるとよくわかります。本講義では、モノの形と強さの関係について解説します。
音波と衝撃波	サイレンを鳴らしながら通りすぎる救急車や警笛を鳴らしながら通り過ぎる電車の音程が急に変化することは日常的に経験します。もし、これらの通過速度がどんどん速くなって行ったらどんなことが起こるのでしょうか？ 水中から宇宙まで音に関するさまざまな現象があります。本講義では、音波と衝撃波現象のはなしを中心に、それらに関連する自然現象や応用技術について解説します。
神戸の海運	神戸港の歴史を知るため、東灘区鴨子が原に在住している元船舶職員の畑尾さんにインタビューを行いました。畑尾さんは神戸大学海事科学部の前身の神戸商船大学の更の前にあたる神戸高等商船学校の卒業生で、船舶職員の経験を経て、神戸港の港湾管理業務に携わられた方です。インタビューの話からキーワードを取り上げ、神戸港の歴史や現在について概説していきます。

表 5-5 実施した出張講義

年度	日程	高校	講義内容
2010 (H22)	7月9日	兵庫県立北摂三田高校	模擬授業「人工衛星から移動体の位置を測る」
	11月11日	兵庫県立姫路飾西高校	模擬授業「人工衛星から移動体の位置を測る」
	11月12日	兵庫県立長田高校	模擬授業「太陽放射と地球環境」
2011 (H23)	7月12日	兵庫県立宝塚西高校	模擬授業「タイタニックの悲劇（情報通信技術の発展）」
	7月15日	兵庫県立北摂三田高校	模擬授業「海の中の微生物」
	11月11日	兵庫県立長田高校	模擬授業「タイタニックの悲劇（情報通信技術の発展）」
	11月17日	兵庫県立姫路飾西高校	学部説明及び模擬授業「国際港湾と貿易の将来展望」
	12月19日	兵庫県立北須磨高校	学部説明及び模擬授業「マリー・キュリーの考えたこと」
		兵庫県立姫路飾西高校	学部説明及び模擬授業「壊さず運ぶために・・・」
3月16日	和歌山県立桐蔭高校	模擬授業	
2012 (H24)	9月27日	附属中等教育学校	模擬授業「エンジンを取り巻く環境とエネルギー」
	10月2日	兵庫県立柏原高校	模擬授業「船と地球環境保全」
	10月11日	大阪府立高津高校	模擬授業「画像で遊ぼう - だまし絵の仕組み」
	10月26日	兵庫県立長田高校	模擬授業「地球上の位置を知る」

	11月26日	兵庫県立香住高校	模擬授業「スバラシイ人間になるには、～が重要」 (香住高校向け特別講義)
	11月29日	私立神戸海星女子学院高校	模擬授業「生活とエネルギー」
	3月11日	兵庫県立北摂三田高校	模擬授業「移動体用電気機器の省エネ化・創エネ化・蓄エネ化技術」
2013 (H25)	6月17日	附属中等教育学校 (3～4年生対象)	学部概要説明
	6月27日	私立関西大倉高校	模擬講義「コンピュータはなぜ計算できるのか」
	6月28日	兵庫県立芦屋高校	模擬講義「身近にあるもの～その作り方と機能～：ねじ」
	7月11日	兵庫県立北摂三田高校	模擬講義「衛星から風を測る」
	7月12日	兵庫県立尼崎稲園高校	模擬講義「航法計算」
	9月26日	奈良県立平城高校	模擬講義「船乗りへの途、養成の過程と仕事の実際」
	10月3日	大阪府立高津高校	学部概要説明、模擬講義「画像で遊ぼう」
	11月2日	私立初芝富田林高校	学部概要説明、模擬講義「航空会社の運賃戦略－企業行動を数理的に分析する－」
	11月19日	私立神戸海星女子学院高校	模擬講義「神戸大学海事科学部で学ぶ国際法」
	11月21日	兵庫県立姫路飾西高校	模擬講義「太陽放射と地球環境」
	11月22日	兵庫県立長田高校	模擬講義「電気ので海水中成分をはかる」
11月29日	私立大阪女学院高校	学部概要説明	
2014 (H26)	6月22日	合同進学説明会「夢ナビライブ」 (大阪会場)	講義ライブ「自分の英語力の扉を開け！」
	6月26日	附属中等教育学校	学部概要説明
	7月10日	兵庫県立北摂三田高校	模擬講義「衛星から風を測る」
	7月10日	清教学園高校	模擬講義「粒子ビームと核融合炉」
	9月25日	奈良県立平城高等学校	模擬講義「日本を支える国際物流～海運と海事社会について～」
	9月26日	兵庫県立夢野台高等学校	学部概要説明、模擬講義「光の波長を変換することでエネルギーを高効率に利用できるようにする材料の開発」
	10月18日	合同進学説明会「夢ナビライブ」 (福岡会場)	講義ライブ「大気汚染の状況をシミュレーションする」
	11月5日	初芝富田林高校	模擬講義「国際港湾と貿易の将来展望」
	11月13日	兵庫県立飾西高等学校	学部概要説明、模擬講義「船や電車の情報科学」
	11月20日	神戸海星女子学院高校	模擬講義「太陽放射と地球環境」
	11月21日	兵庫県立長田高等学校	学部概要説明、 模擬講義「船に働く力(大量のモノを運べる原理とコントロールの難しさ)」
11月27日	大阪女学院高等学校	大学・学部説明	

(3) オープンキャンパス

オープンキャンパスは優秀な受験生の確保という観点から、最も重要な学部広報活動である。海事科学部発足当初は、学部名称が一般に浸透していないこともあり、高校生の参加者は100名を少し超える程度であった。平成19年度からは、広報・社会交流推進委員会の中にオープンキャンパスを実施するためのプロジェクトチームを置き、ここで企画・運営を行うこととした。また、高校訪問を通じたオープンキャンパスの宣伝の実施と学部知名度の上昇に伴い、表5-6に示すとおり近年参加者数が大幅に増加してきている。平成26年度は、学部・入試説明会、研究紹介、研究施設訪問ツアー、深江丸洋上ゼミ、相談コーナー、海事博物館の公開を中心にプログラムを組

んだが、研究施設訪問ツアーと深江丸洋上ゼミの事前申し込みは、早い時期に定員を超える状況となっている。

また、平成 25 年度から、女子高校生の進学を促す目的で、女子高校生を対象としたオープンキャンパスを実施している。海事科学部に在籍する女子学生から直接女子高校生に対して学生生活の情報を提供する機会を設け、好評を博している。

平成 26 年度には、A0・推薦入試の受験を促す目的で、両入試のための特別説明会を実施した。ここでは、両入試を経て海事科学部に合格・在籍する学生から直接高校生へ情報を提供する機会を設け、好評を博した。

表 5-6 オープンキャンパス参加人数

年度	日程	参加高校生	保護者・一般
2004 (H16)～2009 (H21) の平均		118	83
2010 (H22)	8 月 8 日	258	96
2011 (H23)	8 月 8 日	318	73
2012 (H24)	8 月 8 日	332	141
2013 (H25)	8 月 8 日	364	117
2014 (H26)	8 月 8 日	345	111

(4) 見学の受入れ

近隣の高校及び中学からの見学希望にも、可能な限り対応してきた。全体で1時間半から2時間の実施時間とし、簡単な学部紹介、主要な教育研究設備（深江丸、船舶運航シミュレータ、総合水槽実験棟、粒子加速器など）の見学及び海事博物館の公開を基本的なコースとして実施している。近年の受入れ実績は表5-7に示すとおりであり、参加学校数、学生数ともに増加傾向にある。

表 5-7 見学受入れ実績

年度	日程	学校名	参加者数
2010 (H22)	6月11日	兵庫県立有馬高校	42
	7月8日	兵庫県立西宮北高校	13
	10月29日	兵庫県立星陵高校	6
	11月15日	私立開智高校	158
	12月15日	私立開明高校	28
2011 (H23)	7月11日	大阪府立千里高校	120
	7月29日	兵庫県立北摂三田高校	72
	10月21日	私立鳥取城北高校	30
	10月28日	兵庫県立星陵高校	7
	11月14日	私立開智高校	124
	12月13日	私立開明高校	18
2012 (H24)	9月20日	私立奈良学園高校	79
	10月11日	京都府立菟道高校	4 (教諭のみ)
	10月26日	兵庫県立星陵高校	11
	10月29日	京都府立海洋高校	19
	11月1, 22日	私立奈良学園高校	80
	11月12日	私立開智高校	130
	12月6日	大阪府立大手前高校	6
	12月12日	私立開明高校	26
	12月13日	島根県立益田高校	20
12月18日	大阪府立千里高校	80	
2013 (H25)	6月14日	京都府・綾部市立綾部中学校	64
	7月5日	附属中等教育学校 (1~2年生対象)	約240
	7月11日	大阪府立泉陽高校	約40
	9月19, 26日	私立奈良学園高校	78
	10月17日	私立開明高校	13
	10月25日	兵庫県立星陵高校	2
	11月1日	京都府立海洋高校	16
	11月20日	私立開智高校	121
	11月25日	愛知県立三谷水産高校	24
	12月17日	大阪府立千里高校	約120
	2月19日	兵庫県立香住高校	8
2014 (H26)	7月17日	須磨学園高校	13
	7月22日	第7回科学交流合宿研修会 (兵庫県高等学校「咲いテク」事業)	4
	8月5日~7日	奈良学園高校 (2年生対象)	2
	8月26日	大阪女学院高校	25

8月28日	智辯学園高校（奈良県）	43
10月16日	島根県立益田高校	20
10月24日	兵庫県立星陵高等学校	13
11月18日	奈良学園高校	67
11月25日	奈良学園高校	67
12月15日	大阪府立千里高校	約160

(5) その他

兵庫「咲いテク（Science & Technology）」事業推進委員会（兵庫県内のSSH指定9校と県教育委員会の合同組織）が主催するサイエンスフェアに協力し、ポスターセッションによる研究紹介をするとともに、高校生・高専生による発表に対してアドバイス等を行った。平成26年度は、全体で1,460名の参加者があり、ポスターと口頭を合わせて171件の発表があった。海事科学研究科からは5つの研究室が参加した。